

9月定例 Web 会議（9月19日）議事録

1. 情報共有

- (1) #26回SDAセーフティコンテスト（全国大会）結果とレビュー・・・付 紙
- (2) #22回安全運転競技大会（東京大会）参加者募集について・・・・・・同 上
- (3) 令和7年度無事故無不違反運動について・・・・・・同 上

2. 連絡調整事項

- ・令和7年度の実技講習、会議の今後の予定について・・・・・・同 上
 - (1) 9月26日 蒲田自転車実技・座学講習
参加予定：会員28名、会員外10名
 - (2) 11月6日 荒川自然公園自転車実技・座学講習（荒川区共催）参加者募集

3. 三塚顧問のアドバイス

○全国交通安全運動のパンフレットを各社で使用して注意喚起することを奨励する。

○警察庁交通局が発表した上半期の交通事故統計について

9月16日時点での暫定死者数は1,675人で、昨年比-92人。

特に東京、神奈川、北海道での死者数が多いことを説明。

4位以下は大阪、千葉、愛知、埼玉、兵庫、福岡、茨城の順。

○秋の全国交通安全運動（9月21日～30日）の三つの重点項目を説明

- ・第一に、歩行者の安全な道路横断方法等の実践と反射材や明るい服装の着用促進が挙げられており、歩行中の死者数が全体の35.4%を占め、特に65歳以上の高齢者が多いことを強調。

特徴として65歳未満は道路に寝っ転がってひかれることが多いことから道路の上の黒っぽい物には注意。65歳以上は横断歩道があってもそこを渡らないでその周辺を渡ったり全然違う横断禁止場所のところを渡って跳ねられてしまうことがあるので車を運転する場合は横断歩道がなくても高齢者が渡ってくるということをよく理解することが必要。

- ・第二に、ながらスマホ、飲酒運転及び妨害運転の撲滅については、この三つの取り組みが厳しいと思って欲しい。特に夕暮れ時は「薄暮時間帯」と昔からよく言われ、どうしても夕方暗くなると、歩行者がよく見えなくなり、歩行者からも車がよく見えないということで、この時間帯の事故が極めて多い。夕方は特に運転に注意すること、また、できるだけハイビームの活用を奨励して欲しい。

- ・第三に、自転車や特定小型原動機付自転車の交通ルール理解の徹底とヘルメット着用促進が挙げられている。自転車事故は法令違反が7～8割を占めることから車を運転する場合は自転車が法令違反を犯して車にぶつかってくると思って欲しい。自転車事故は

15 歳以上 19 歳以下が多く、高校生から大学生ぐらいまでが自転車のルールを守らずに走って事故に遭う確率が高いと思うので、運転中は「危ないな」と思いながら注意し欲しい。

また、特定小型言動機付自転車は 20 代から 30 代が 7 割の事故に関与しているので、その年代が運転してる場合は、法令を守らない可能性もあるということを十分注意して欲しい。

以上